

新幹線プレス 		2024 年 10 月 10 日	No.684
		発行者	伊 藤 一 也
		編集者	教 宣 部
ＪＲ東海労新幹線地本			

JR東海労の解散を求める支離滅裂な文書が発覚しました

小林昇組合員が何人かの組合員に「東海労は解散せよ」とか「脱退を検討している」などと書かれた複数の文書を送っていることが明らかになりました。また、地本OB会の南波事務長が複数のOB会員にこの小林文書と「ＪＲ東海労を良くする会」と称する怪文書を「参考にして」として送っていることも明らかになっています。方針や取り組みについての意見交換ではなくてＪＲ東海労の存在そのものを否定する組織破壊行為です。

しかし文書の内容は支離滅裂で、何でＪＲ東海労を解散すべきなのか全然わかりません。ただただ感情むき出しで「解散だ」とわめいているだけです。あえて整理すれば、「総連と共に～展望が開かれると思ったが」ＪＲ総連を除名になってしまったから展望がなくなったといいたいようです。

しかし「総連と共に」何をしたかったのかは何も書かれていません。「総連と共に」どういう闘いをするのか、どういう闘いをやれば「展望が開かれる」のかが一言も書かれていないのです。

当たり前のことですが、労働条件の切り下げや不当な処分・出向・配転に対して職場から闘うことが、労働組合の基本的な課題です。不当に出向に出された組合員も出向先の仲間に訴え団体交渉を実現し労働条件改善の取り組みをつくり出しています。その最大の成果がＪＳ労結成です。そのことによって名古屋で関連会社の仲間が東海労に加入しました。

これらの闘いに対してＪＲ総連はどのような方針を掲げ「共に」闘ってきたのか？ＪＲ東日本でもＪＲ東労組に対してＪＲ東海をはるかに上回る攻撃がかけられてきていますが、これに対してＪＲ総連とＪＲ東労組はどうたたかっているのか？小林組合員はこうした現実には触れずにただただ総連の組織にいれば安心だといっているにすぎません。また小林組合員自身が出向先で何を要求しどう取り組んでいるのか？自分が何もしていないのに偉そうな講釈を垂れているだけです。

労働組合の解散など簡単に言えることではありません。しかも、役員に不信があるから集会には出ないと言っているようです。つまり除名になったのは東海労の指導部のせいだとあたりちらしているだけなのです。

ところでＪＲ東海労を解散してそのあとどうするのでしょうか？いや彼はこれまでも出向先での闘いも平成採の仲間を支える取り組みも何もしていないのだから、俺は知らない・関係ないということでしょう。

このような無責任で子供じみた主張を反省し出向先の職場で真面目に活動せよ！